

第2回

しらのちの作文 コンクール



作品集

も く じ

◆入賞作品

〈小学校低学年の部〉

最優秀賞

広陵町立真美ヶ丘第一小学校

二年 木原 菜月

優秀賞

檀原市立真菅北小学校

二年 二宮 巡

五條市立五條小学校

一年 岡本 真凜瑛

加西市立字仁小学校

一年 鷹取 遵

〈小学校中学年の部〉

最優秀賞

王寺町立王寺南義務教育学校

三年 岡本 寛菜

優秀賞

天理市立山の辺小学校

四年 園田 小糸

五條市立五條南小学校

四年 辻ノ内 ゆきな

東京学芸大学附属竹早小学校

四年 穴見 翠粋

〈小学校高学年の部〉

最優秀賞

奈良市立平城小学校

五年 村上 紗幸

優秀賞

奈良市立平城小学校

五年 卯川 琴美

五條市立五條小学校

六年 吉田 歩生

田原本町立田原本小学校

五年 高原 航大

〈中学校の部〉

最優秀賞

王寺町立王寺南義務教育学校

九年 三田 一葉

優秀賞

奈良市立都南中学校

二年 斉藤 未悠

檀原市立八木中学校

三年 木村 愛香

宇陀市立大字陀中学校

三年 中森 佳世

◆佳作受賞者一覧

◆学校賞一覧

◆「いのちの作文コンクール」によせて

◆第二回奈良県「いのちの作文コンクール」審査委員

〈小学校低学年の部〉

どうぶつ大好き

広陵町立真美ヶ丘第一小学校

二年 木原 菜月
きはら なつき

はじめは、どうぶつのことをかわいいだけだと思っていました。九月にうだ・アニマルパークの人から話を聞きました。そこで、どうぶつと人間にはつながりがあると学びました。ペットとかいぬさんは心のつながりがあって、家ちくとは、けんこうのつながりがあります。しかも、野生どうぶつともつながりがあって、しぜんの川やくう気をきれいにつかうというつながりです。わたしは、そのつながりを大切にまもっていききたいと思いました。

その何日か後に、えん足でうだ・アニマルパークに行きました。そこで、うだ・アニマルパークの先生に、どうぶつにも心があるということを教えてもらいました。どうぶつにも心があると知った時はびっくりしました。やぎのえさやりの時、はじめはどきどきしたけれど、やっている中から、やぎも生きているのだなと思いました。十一月に三回目のじゅぎょうをうけました。どうぶつをしあわせ

にするには、どうするか考えました。ペットをしあわせにするには、おそうじをすること、水やごはんをきちんとういすること、そして、おさんぽをすることやいっしょにあそぶことも大切だと学びました。また、ポイすてをしないことや、さわがないことも学びました。ポイすてしたごみを、どうぶつが食べたらしぬきけんもあるからです。

「山に来た時にさわいでいたら、クマやキツネの野生どうぶつがびっくりして、人をおそうかもしれないから、だめだよ。」

と教えてもらいました。

いのちの学しゅうをして、前よりどうぶつが好きになりました。どうぶつとのやくそくを、これからもずっとまもっていききたいです。

【審査委員からのコメント】

うだ・アニマルパーク実施の「いのちの教育プログラム」を通して学んだ人間と動物のつながりの大切さや向き合い方を具体的に表現しています。自分の生活と結び付けて考えたことを今後の生活に生かそうとする思いが伝わってきました。

いのちをもらっている

檀原市立真菅北小学校

二年 二宮 巡のみやめぐり

いのちは大切だと思います。いのちをわたしはもらっていると思います。

うしには、ぎゅうにゅうをもらっています。ぎゅうにゅうは、本当は、うしの赤ちゃんにあげるはずだったものをもらっています。にわとりからは、にわとりのたまごをもらっています。本当は、赤ちゃんが生まれてくるはずだったので、いのちをもらっています。野生どうぶつからも、きれいな水ときれいな空気をもらっています。そして、ペットはしあわせをくれます。冬はあったかくしてくれます。

でも、そのためにしないといけないどうぶつたちが、いっぱいいます。だから、わたしはどうぶつたちにやさしくしてあげたいです。でも、もっといっぱいできることがあります。きゅう食はなるべくのごさないようにしたり、にがてな食べものも一口は食べたり、いろい

ろなことをしてあげられると思います。だからわたしは、なるべくちやんと食べたり、やさしくしたり、いろいろなことをしてあげたいです。



むしのことをよくしろう

五條市立五條小学校

一年 おかもと 岡本 まりえ 眞凜瑛

このまえ、くらすでかっていたくわがたの「こくわがちゃん」がしんでしまいました。おはかをつくって、みんなでてをあわせました。わたしは、かなしいとおもいました。

そのあと、うんどうじょうでみつけたたまむしを、くらすでかうかみんなではなしあいました。わたしは、たまむしのじゅみょうがみつかしかないので、うんどうじょうにかえたいとおもいました。

これからは、むしのことをよくしらべて、じゅみょうがみじかいむしはつかまえないようにしようとおもいました。



いのちのたいせつさ

加西市立宇仁小学校

一年 鷹取 遵 たかとり まもる

ぼくには、おにいちゃんがあります。でも、であったことがありません。なぜかというと、ぼくがうまれる一ねんまえに、おかあさんのおなかのなかでなくなったからです。

おとうさんとおかあさんはまいとし、おにいちゃんのおうまれたひになると、

「やってきてくれて、ありがとう。」

といいます。ぼくともうとも、まねをして

「おにいちゃん、ありがとう。」

といいます。でも、ぼくはなにが「ありがとう。」なのか、ぜんぜんわかりませんでした。

だってほんとうは、おにいちゃんに、いきっていてほしかったからです。おともだちのきょうだいみたいに、いっしょにキャッチボールをしてあそびたかったからです。がっこうに、いっしょにいったり、ど

つちがいっぱいきゅうしよくをたべるかしょうぶしたりしたかったです。それは、きつとおにいちゃんも、おとうさんも、おかあさんもみんなおなじきもちだとおもいます。

だから、ぼくは、おにいちゃんのぶんもいっぱいたべて、いっぱいあそんで、いっばいおてつだいをして、いきていかないといけないとおもいました。

おにいちゃんがぼくに「いのちのたいせつさ」をおしえてくれました。おにいちゃん、ありがとう。ぼくは、おにいちゃんのぶんもがんばっていきっていくね。



〈小学校中学年の部〉

一番さいしよにもらった宝物

王寺町立王寺南義務教育学校

三年 岡本 寛菜

わたしは五月十四日に生まれました。わたしが生まれて、家をたてたそうです。たてている間、おばあちゃんの家に行っていました。おばあちゃんの家では、おばあちゃんとおじいちゃんがかわいかったです。

わたしを赤ちゃん用のおふろに、お母さんが入れてくれました。兄のひなせがそれを見て、自分も服をぬいで入っていたそうです。それを今の学年で聞くと、わたしは幸せだなと思いました。

そして、わたしがみんなにかわいがられていると、ひなせがぼくもかわいがつてと、ぶんぶんおこっていました。兄にはわるいけど、わたしはすごく幸せなんだと思いました。

わたしは、赤ちゃんのころいっぱいごはんを食べていました。わたしのおじとおばがすごくかわいかったです。だっこをしたりあそんだりしてくれました。すごくうれしかったです。やっぱり幸せだけだと思いました。

そうして家ができ、はじめて家にもどりました。わたしたちの家はなかのいい友だちの家の近くで、よくお母さんたちがわたしたちをだっこしてしゃべっていたそうです。

そして、二さいのころ頭をこっせつしました。なぜかという、家のかいだんの上から落ちたからです。そのとき、病いんに行ってレントゲンをとりました。終わるとお医者さんが、

「えらい。ちゃんとできたね。」

といってくれたので元気ができました。三日ぐらいでたいいんできました。命が助かってすごくすくすくよかったです。病いんにつれていってくれた、お母さんにもかんしゃしています。

そして今、三年のわたしと一年の弟、六年の兄、お父さん、お母さんでみんないっしょに元気にくらせています。一番さいしよにもらった宝物の命を大切にしようと思います。

【審査委員からのコメント】

これまでの家族との関わりから、自分の命を「宝物」と捉え、その命を大切にしていこうとする気持ちが素直に表現されています。家族の絆の強さや多くの人に支え、守られながら生きていくことに感謝している気持ちが伝わってきました。

生まれてきた場所は…？

天理市立山の辺小学校

四年 園田 そのだ 小糸 こいと

十一月にいとこが生まれ、とてもうれしい気持ちでいっぱいでした。でも、そう思ったのは、ほんの少しの間です。

赤ちゃんや小さい子は、少しのことで亡くなってしまいうくらい弱いので、守ってあげたり、育つのを手伝ってあげたりしなければいけません。でも、安全な場所に生まれるということ、戦争の地に生まれた子どもたちでは、くらべものにはなりません。

いとこは十一月の初めに、私の四人目のいとことして、東京で生まれました。東京は、日本なので、安心できる場所に生まれてきました。しかし、最近テレビでは、イスラエルで、戦争が起きているニュースがあります。ママから聞いた話では、

「四さいぐらいの子どもたちが、『ぼくたちなんにもしてないよお〜。』

と泣きながら言っていたのを見て、かわいそうやなあと思った。」

と言っていました。本当に、その通りです。なんのつみもない人が次々と命を落としてしまう、それが戦争のおそろしいところです。戦争の地に生まれた子どもも、これからを生きる、たいせつな命です。安全なのがふつうと思って生活しては、いけないと感じました。

これからは、最初に書いたように、いとこは、これからを生きる大切な命なので、守ってあげたり、育つのを手伝ってあげたりしようと思います。

命

五條市立五條南小学校

四年 辻ノ内つじのうち ゆきな

私は、命がとても大切だと思います。ゲームであるのなら、何回でも生きかえることができます。でも人生はちがいます。自分の名前でも生まれてくるのは一度きりです。生まれかわっても、今の人生とまったく同じではないでしょう。だから、この今の人生を大切にして、最後、よい人生だったと言えるくらいの人生がいいと思います。

時は、もとせません。ケガをしてしまった、させてしまったなど、ときでも、時間は、まきもとせません。もちろん命も、もとりません。命をどうでもいいと思ってる人、心が悲しくなってる人は、その悲しいことを捨てて、楽しいことをふやしていくといいかもしれません。少し元気になることをしてみたらいいと思います。それでも、元気になれなかったら、一度気持ちをリセットするために、ねるのがいいとお姉ちゃんが調べてくれました。たしかにいいかもと思います。そして、自分のからにとじこもるのではなく、新しい世界を見るのも

いいと思います。世界は広いので、だれか助けてくれる人がいるはず。だから「死にたいな。」なんて言わないで、助けてくれる人をさがせば、気持ちが楽になるかもしれません。

このように考えると、命とは、お金でかえない、かちが高い、とても大切な人の一部だと思います。自分も大切にし、家族も友達も大切にしようと思いました。

くいちゃんとういちゃん

東京学芸大学附属竹早小学校

四年 あなみ 穴見 すいき 翠粹

「ガラツ」と塾のドアをあけると、くいちゃんが水槽のガラスをよじ登ろうとしています。「待ってたの?」と私が声をかけます。くいちゃんは喜びすぎて、ひっくり返ってしまいます。くいちゃんは、アカミミガメです。

私が二オの時に、くいちゃんはここに来ました。くいちゃんは今、八オです。私は十オで、私の方が二オ年上です。だから、二オの時は〇オです。雨の日におさんぽをしている犬にさわってからとびらをあげました。すると、いつものようにしてはくれません。やきもちでもやいてしまったのでしょうか。かわいいなあ。私もときどきくいちゃんにいじわるをします。たとえば、エサをわりばしでとって、近くまでもっていったから、横に動かすといういじわるをします。その時のくいちゃんは、人間でいえば、「ズッコー」という顔と、「え?…:…くれないの?」という顔がまざった顔をしています。その顔がかわいいし、おかしいので、もう笑ってしまいます。

くいちゃんは、目が見えるのだろうか、耳が聞こえるのだろうか、どうして、私だとわかるのだろうか、といつも不思議に思います。塾のほかの生徒には反応しません。私は、一週間に一度しか行かないのに、覚えてくれているのです。このあいだ、くいちゃんに「はい、はい、ごはんだよ」と言いながら餌をあげようとしていたら、「ありがとう」といつているように首をふりました。そのとき、とつぜん「くいちゃんの一生に責任をもたなければいけない」と強く感じました。でも、私は一週間に一度しかここに来ません。それで、先生に相談しました。先生が、

「大丈夫。私がいちゃんの命預かるよ。」

と仰ってくれました。理科の先生は、水槽のお掃除をしてくれていますが、

「命、預かります。」

とにこにこしながら、言ってくれました。

塾を卒業する時、くいちゃんをこれからお話ししていききたいと先生に相談するつもりです。それまでまっていてね。くいちゃん。

〈小学校高学年の部〉

命の大切さ

奈良市立平城小学校

五年 村上 紗幸
むらかみ さゆき

私のお父さんはいません。私が小学一年の時にがんで亡くなったからです。だから、お父さんとの時間はあまり覚えていません。

私が知っているお父さんは、やさしくてすごくおもしろい人でした。休みの日は、いつもどこかへつれていってくれました。その時の記憶はあまりありませんが、楽しかったということは覚えています。一年生の時だったので、お父さんが病気になるって聞いてもわかりませんでした。お父さんは、とてもがんばっていました。まだ一年生の私にはそれくらいのことしかわからなかったけど、今考えるといろいろな事が思いうかびます。そして、お父さんが亡くなる時になりました。その時の私はずっと泣くことしかできませんでした。お父さんに「がんばれ。」の一言も言えませんでした。お父さんが亡くなったのは悲しいですが、お父さんからもらったこの命を大事にして生

きていきたいと思います。

そして、自殺するしかない悩んでいる人に言いたいことがあります。生きたくても生きられない人がいるのに、自分の命をたつのはよくないという事です。私も明日死んでしまいかもしれないし、周りの人もいつか死ぬのだから、その時までにはがんばって生きたいです。

【審査員からのコメント】

限りある命を懸命に生きることの尊さについて、自身の経験を振り返りながら、生きることの意義やかけがえのなさについて考えたことが表されています。さらに、多くの人に命の大切さを訴えかけようとする強い思いが伝わってきました。

支え合って生きていく

奈良市立平城小学校

五年 卯川 うかわ 琴美 ことみ

この世界では、一人一つの大切な命があるのにも関わらず、自ら命を絶ったり、他人の命を奪っている人がいる。それは、相手のことをよく考えていないから、命が失われてしまうのだと思う。わたしたちは、支え合って生きていくことが大切なのではないだろうか。

人を殺してしまうのは、相手の意見に納得いかなかったり、相手が嫌いだったりしておこなってしまうのだと思う。自殺は悩みをため込んだり、相手のことを考えすぎたりしすぎて、そうなってしまいうちともあると思う。このようなことにならないために、どうしたらいいか。私は、支え合って生きていくことが大切だと考える。

生きるというのは大変だ。だが、一人だけで生きていくのではない。たくさんの方が支えてくれている。支え合うというのは、おたがいを思いやり、助け合うということ。だから、一人ひとりが相手のことを

よく考え、相手の言っていることをしっかりと受け止めることが大切。

けんかをしてしまうことは誰だってある。だが、その後の対応によって、仲直りをする、殴り合いになると変わってくる。そのけんかがひどくなってしまうと、殺人事件レベルとなってしまうかもしれない。やはり、おたがいに分かり合うことは大切である。

私は学校で、友達二人のけんかを見たことがある。いつ、相手に殴りかかってもおかしくなくらい、二人とも怒っていた。もし、誰も先生に言いに行かなければ、二人とも、けがをしていたかもしれない。

命を大切にするとは、相手と分かり合うことから始まる。命は生きていく中で一番大切だ。一度失ってしまったら二度と楽しく遊んだり、勉強したりできなくなってしまう。一人ひとりが少しでも、よい関係になって、支え合って生きていってほしい。そして、自分のたった一つの命を大切にしていってほしい。

今、生きていること

五條市立五條小学校

六年 吉田 よしだ 歩生 あおい

わたしには今、姉一人と妹二人がいます。

でも、本当はもう一人の妹がいるはずだったので。

八年前、わたしは四才でした。その時のわたしは、とてもワクワクしていました。理由は、妹が生まれてくると思っていたからです。十月四日が、妹が生まれてくる予定日でした。とても楽しみにしていたので、その時のことをよく覚えています。予定日より早い日の夜、お母さんに病院に呼ばれました。だから、お父さんとお姉ちゃんとわたしで病院に向かいました。その車の中に血のように赤くて小さい赤ちゃんの写真が、かざってありました。わたしはその写真を見て、「宇宙人みたい。」と言ってしまいました。そのことは、今でも後かいています。

病院について亡くなってしまっている妹を見て、あせって何も出来ませんでした。その数日後、家の近くにある火そう場に行き、お別

れの準備をしました。その時わたしはみんなが何をしているのか分からなくて、じつとしていられませんでした。とうとうお別れの時間になりました。ボタンをお母さん、お父さん、お姉ちゃん、みんなでおすことになりました。お父さんにだっこをしてもらい、おそうとなつた時に、急になみだが出てきて、ボタンはおせたけど、せめて最後は笑顔で送り出せたらなと思いました。そこから十分から二十分ずつと泣いていました。わたしはこのことをきっかけに、今、わたしが生きていけているのは、当たり前じゃないと分かりました。

これからは、身の回りにある命を大切にするとともに、今日という日を大切に生きていこうと思いました。

命のはかり

田原本町立田原本小学校

五年 高原 たかはら 航大 こうた

ぼくは、犬やねこの命を守ることは大切だと思います。しかし、ねこや犬の命を大切にするように、蚊やゴキブリを大切にしようとする人は少ないのではないかと思います。なぜ犬やねこは守られ、かわいがられ、蚊やゴキブリは守られず、気持ち悪いと言われるのでしょうか。ぼくは、どんな生き物でも命の重さは同じだと思います。

人間の中には、どんな動物も大切にする人もいますが、まるで、自分たちが命のはかりを持っているかのように命をそ末にあつかう人もいます。蚊やゴキブリは病気の原因になるきんを運んでくるので、衛生面での問題があります。しかし、同じ地球上に生きてきた生物であり、自然のサイクルの中では重要なはたらきをしています。ゴキブリは動植物の死がいや、枯れた葉っぱなどを食べて分解し、栄養をじゅんかんさせるはたらきがあります。もし蚊が血をすったという理由で殺されたとします。今、あなたが蚊なら、その理由に納得でき

ますか。ぼくはできません。蚊にとって血は、自分や家族の大切な食料です。かん境はかいや動物を殺すことは、人間だけの勝手な都合なのです。

人間の差別を禁止するきまりはたくさんあります。人を差別することをだめだと思う人は多いのに、こん虫を差別することをだめだと思う人は多くないと思います。現代を生きる私たちにとって、自分たちさえ都合が良いのではなく、力を分け合ったり、協力して、おたがいくらしやすく、生活がしやすい地球をつくるのが目標だと思います。身近な動物でも一人一人が大切にすれば、地球は変わります。地球上のみんながくらしやすいかん境を、ぼくは作っていききたいと思います。

〈中学校の部〉

命の選択と思考

王寺町立王寺南義務教育学校

九年 三田 一葉
みた かずは

必死に生き延びようとする命に対して、私たちに何かできるのだろうか。目の前で頑張って生きている命を、一体どうすることが正解なのか。そう思うときがあった。

テレビで見かける動物病院のノンフィクションの番組では、数多くの患者の中でやはりいるのだ。重症で治療が困難なため、安楽死を余儀なくされる動物が。私はその場面を見るたび、何ともいえない苦しい感情がわき上がるのだ。このまま痛みにたえながら生涯を全うするか、苦しまずに死を迎えるか。その命の選択を飼い主や獣医師が下す。そのことに賛成する人もいれば、反対する人もいるだろう。私にはまだ、どちらが正解なのか分からない。動物にとつて、どちらがいいかなんて、自分の考えだけで決められるわけがない。苦しみながら生きるなんて辛いだけかもしれないし、かといってこの先続いていたかもしれない命を一回の選択で途切れさせてしまうのは何か違う気がするのだ。しかし、同じ状況に自分がおかれたとき、安楽死を選ぶ人も少なくはないと、私は考える。誰だって、苦しいことは嫌だし、楽に生きたいと思うだろう。動物だって同じなのかもしれない。そういうことを考えると、安楽死も選択の一つとして入るのは、おかしくはないのだろう。

ある日、飼い猫のバニラが大怪我をしたと祖父から連絡が来た。実家で放し飼いでいたために、誤って動物の罠にかかったのだ。あまりに酷い傷を、私は見ていられなかった。人によっては、安楽死をさ

せた方がよいというかもしれない状態だった。私たち家族で相談し、バニラのことを家族で世話をしていくという結論に至った。

家族に見守られる中、バニラは一生懸命生きようとしていた。動かすのもままならない足で、必死に歩いていったのだ。そんなバニラに、何もできずにいる自分がとても悔しかった。それと同時に、頑張っているバニラを、私は尊敬している。私たちの選択はバニラにとつては酷なことだったのかもしれない。本当は痛みから解放されたかったのかもしれない。けど、バニラの姿を見ていると、生への強い執念、命の粘り強さというものが、ひしひしと伝わってきたのだ。まるで、生きる勇気を分けてくれているかのようにだった。

バニラは、今も尚、懸命に生きています。その選択が正しいかどうかなんて、私にはまだ分からない。それが、バニラにとつていいことなのかも分からない。バニラに対して、何か私にできることはないのだろうか。まだ疑問に思っていることが、数多くある。だから、私は思考をやめない。命に対して、考えることを諦めてしまえば、命の重さや大切さが見えなくなってしまう。そうならないように、私たちは命について考え、悩み、行動に移していく。難しいことかもしれないが、これが私たちにとって必要不可欠なことなのだ、私は思う。

【審査委員からのコメント】

この後、バニラは不自由な足で元気に遊び回るようになったそうです。当時の必死に生きようとするバニラの姿から、命の重さや命との向き合い方について、これからも悩み思考し続けていくことが必要だと考える強い意志が伝わってきました。

明日

奈良市立都南中学校

二年 齊藤 未悠

「あなたにはもう明日が来ないと言われるなら、どう思いますか。」と聞かれたら、私は絶対に、「そんなの嫌です。」と答えるしかないと思う。

当たり前前の生活が明日も必ず来るとは限らないのに、どこからか私には「明日が来る。」という自信があった。でも、もし今日、交通事故が起きたら、地震で建物の下敷きになってしまったら、私は死んでしまうかもしれない。明日が来ないかもしれない。

今もこの世界では、たくさんの人が亡くなっている。資料によると日本では一日当たりの死者数は三千二百八十人である。毎日、私たちが何気ない日常を過ごしている間に、知らない所で多くの人が亡くなっている。私の身の回りでは感情が高ぶると「死ぬ」「消えろ」という言葉を使う人がいる。今思えば、亡くなった方々に失礼だと思った。

昨年、十月三十一日に私の家の猫が亡くなった。その時は、家族の皆はいつものように学校や会社に行っていて、祖母は帰りが遅い両親に代わって手伝いに来てくれていた。祖母は亡くなった猫を見つけたとき、思わず声を上げたと言っていた。すぐに母と弟、そして私に知らせてくれた。私は初め、嘘だと思っていた。冗談だと思っていた。けれど嫌な予感がして、急いで家に帰った。私が帰ったときには母と弟が既に帰っていて、猫を囲んで泣いていた。猫はダンボールに寝かせられていて、私はそれを恐る恐る覗き込んだ。見た瞬間、私はようやく嘘ではないと思った。生き物の死という瞬間に初めて立ち会った。「辛い」「悲しい」そんな単純な気持ちでは表せないほど辛かった。けれど、まるで昼寝をしているような様子で、苦しまなくてよかったと思った。この先、生きていく限り、本当の別れを何回も体験していくのだと思うと胸が苦しくなる。

いつも元気な人が、明日になったらもう居ないのかもしれない。自分が死んでしまうかもしれない。明日を生きたかった人、明日を生きられるはずだった人。たとえ名も知らぬ他人だとしても、同じ地球で生きる仲間、そんな人々の思いを抱いて私たちは進んでいくべきだと思う。大切な人との別れは、一生慣れることはないと思う。だからこそ命というのは尊く、そして儚いものである。明日を生きたかった人の明日を生きる私たちの責任なのである。

いのちについて

檀原市立八木中学校

三年 木村 愛香
きむら まなか

私は「いのち」と聞いてすぐに、「これだ」というのが思いつきませんでした。そこで過去にあったことや、今までの人権の授業を思い出して「いのち」について考えてみました。私は、生き物の誕生と死をイメージしました。

私が幼稚園児だった頃、生まれたばかりのインコが家族の一員になりました。その頃のインコは手の平よりも小さくて、淡い黄色の翼を持っていました。その黄色からインコの名前は、「きいちゃん」になりました。きいちゃんを手に乗せてみると温かくて、元気に動いて、元気に鳴いていました。そこから私は「生きている」と思いました。きいちゃんはいろんな言葉をおぼえてよく一人で話していました。きいちゃんの声があると家がにぎやかで明るかったです。私が小学二年生の頃、今住んでいる家に引っ越しをしました。もちろんきいちゃんも一緒に新しい家に引っ越しをしました。私の家は校区外だったので、学校に行くときは車で送ってもらい、帰りは祖母と祖父の家歩いて帰り、母の仕事が終わるまで、そこで母の帰りを待っていました。引っ越しをしてから、祖母と祖父の家に居る時間が増えました。そして、きいちゃんとの時間が減りました。

引っ越しから数か月たったある冬の日、家族は出かけていて、私は家に一人でした。私は久しぶりにきいちゃんをきいちゃんの家から出しました。いつも通りのきいちゃんでした。温かくて、元気に動いて、元気に鳴いていました。

次の日の朝、焦った顔の父に起こされました。父は、「きいちゃん死んでる。」

と言っていました。私はきいちゃんを持ってリビングに行きました。そのきいちゃんは冷たくて、固くて、鳴きませんでした。私は泣きながら心臓マッサージをしました。動かなかったです。きいちゃんは亡くなりました。きいちゃんは私より後に誕生したのに私より進む時間が早くて、もうお年寄りになっていたと気づきました。母が買ってきてくれた黄色のひまわりと一緒にきいちゃんを庭に埋めました。埋めるときも泣いていたら、母に、

「笑ってたほうがきいちゃんも嬉しい。」
と言われました。無理やり笑いました。きいちゃんに会えなくなるのは嫌でした。

私はきいちゃんの死がとても辛かったです。ですが、きいちゃんから誕生して、みんなにくれた幸せの方がずっとずっと大きいです。だから生き物はどんなに死が辛くても、何度も「いのち」を誕生させるのだと思います。誕生があると必ず死があるのは誕生することによる幸せを感じるためだと考えました。そう思うと誕生も死もなくてはならないものだと思います。

マーちゃんが教えてくれたこと

宇陀市立大宇陀中学校

三年 なかもり 中森 かよ 佳世

私が大切に育てたハリネズミのマーちゃんが亡くなったのはマーちゃんが三歳のときでした。私がたくさんお願いしてやっと飼うことを許してもらえたマーちゃんには、愛情をたくさんあたえました。マーちゃんは女の子で、飼いはじめて三カ月の頃にマーちゃんの下に赤い内臓のようなものが三個ほどあることに気付きました。留守番中だったので、焦ってどうすれば良いのか分からなくて、頭が真っ白になりました。親に電話をかけて、もう一度冷静に見ると、それはたしかに動いていました。その瞬間、赤ちゃんだと分かりました。手のひらにおさまるほどのマーちゃんがお母さんだったなんて、動物は強いなと実感しました。私は色々感じることはありませんでしたが、この命をすべて責任をもって育てるんだと覚悟しました。

そこからマーちゃんはお乳をあげたり、あたたかい所に赤ちゃんを運んであげたり、立派に母親をつとめてくれました。ある日一匹の赤ちゃんの姿があとかたもなく、消えていました。私はいちばん体が小さかった子だと気付き、マーちゃんが食べたのだと分かりました。自然界ではごく普通のことだと思っから受けとめることができま

赤ちゃんハリネズミはもう立派な大人になり、子育てを終えたマーちゃんはゆつたりとした日々を過ごしました。そして、ご飯の量が減ってきていると感じました。口に腫瘍ができていたのです。中々なおらないので、病院につれて行くことにしました。お医者さんは、腫瘍をとる手術をするか、薬で様子を見て治していくかを提案してくれました。こんな小さい子が手術を乗り越えられるのかとか、薬だけでこんなにも大きな腫瘍が良くなるのかとか、何が正解か分からず色々考えて、悩みましたが、薬で様子を見ることを選びました。体はとも元気で走りまわっているのに、口からは血が出ているところを見るのがとても辛かったです。

そして、いつものようにケージをあけるとなんだかとても嫌な予感がしました。一人で見るのが辛くて母を呼んで、見ました。やっぱりつめたくなっていました。手をさすってもおしても、全くうごかないマーちゃんを見てとても辛くなりました。そのうちどこからともなくなぞの虫がわいてきて、箱に入れてふたをしました。その箱を家族で家の山にうめてあげがとうを伝えました。手術はやっぱりするべきだったのかと考えたりしてしまいました。今はマーちゃんの大切な子供もいっそう大切にしようと思いました。

マーちゃんを飼うことで、動物を飼うことの大変さ、動物の生きる力、愛情深さ、死ぬということの辛さを知ることができました。楽しい毎日をありがとうと、マーちゃんに伝わっていたら良いと思います。

佳作受賞者一覧

〈小学校低学年の部〉

奈良市立大安寺西小学校	二年	貝原千佳
奈良市立朱雀小学校	二年	山本千紗
大和高田市立片塩小学校	二年	金谷東美
大和高田市立浮孔西小学校	二年	伊藤日和
大和高田市立浮孔西小学校	二年	辻本透夏
橿原市立真菅北小学校	二年	橋本咲穂
五條市立五條小学校	二年	松本一伽
五條市立五條南小学校	二年	辻村成加
香芝市立鎌田小学校	二年	布施梨
葛城市立新庄小学校	一年	谷口愛理沙
葛城市立磐城小学校	二年	岡山千夏
斑鳩町立斑鳩西小学校	二年	中野琉平
王寺町立王寺北義務教育学校	二年	橋本仁
王寺町立王寺南義務教育学校	二年	川畑心花
王寺町立王寺南義務教育学校	二年	吉田茉衣
広陵町立真美ヶ丘第一小学校	二年	鈴木陽斗
野迫川村立野迫川小中学校	一年	山田美陽

〈小学校中学年の部〉

奈良市立朱雀小学校	四年	永田里咲
奈良市立朱雀小学校	四年	南桜
大和高田市立土庫小学校	三年	中川煌琉
天理市立山の辺小学校	四年	寺島花
五條市立五條小学校	三年	西出周平
五條市立五條小学校	三年	山脇大地
五條市立五條小学校	四年	幸脇杏奈
御所市立大正小学校	三年	川本莉輝
宇陀市立榛原小学校	三年	竹内奏
王寺町立王寺北義務教育学校	三年	亀井陽仁
王寺町立王寺南義務教育学校	三年	垣内あかり
王寺町立王寺南義務教育学校	三年	田中茉衣
王寺町立王寺南義務教育学校	三年	東佑真
王寺町立王寺南義務教育学校	四年	入村さゆり
王寺町立王寺南義務教育学校	四年	辰己瑠依
王寺町立王寺南義務教育学校	四年	森橋日花梨
野迫川村立野迫川小中学校	三年	南はるひ

〈小学校高学年の部〉

奈良市立平城小学校	五年	秋山悠人
奈良市立平城小学校	五年	池田優樹
奈良市立平城小学校	五年	近藤菜乃花
奈良市立平城小学校	六年	安達梨央那
奈良市立二名小学校	五年	岩井煌河
奈良市立朱雀小学校	六年	和田樹
大和高田市立陵西小学校	六年	槇香蓮
大和郡山市立郡山南小学校	五年	石田絵蓮
天理市立朝和小学校	六年	柘井春道
橿原市立畝傍南小学校	五年	畔堂夢菜
五條市立五條小学校	五年	淵上真之介
五條市立五條東小学校	六年	椋本大雅
五條市立五條南小学校	六年	中迫杏太朗
平群町立平群北小学校	六年	吉田凱
王寺町立王寺南義務教育学校	五年	平井美優
野迫川村立野迫川小中学校	五年	南龍之介

〈中学校の部〉

奈良市立二名中学校	三年	山崎杏
大和高田市立高田西中学校	一年	岡野聡祐
大和高田市立高田西中学校	一年	小川あい
大和高田市立高田西中学校	一年	吉本悠真
大和郡山市立郡山中学校	二年	高彩乃
大和郡山市立郡山中学校	二年	米澤彩乃
大和郡山市立郡山西中学校	三年	荒木優真
橿原市立八木中学校	三年	上田恵理子
橿原市立八木中学校	三年	北瀬楓子
五條市立五條西中学校	一年	中山藍来
生駒市立生駒中学校	一年	福井ひより
生駒市立生駒南中学校	一年	林陽奈乃
川西町・三宅町式下中学校組合立式下中学校	一年	松井蘭叶
田原本町立北中学校	二年	松本芽依
王寺町立王寺南義務教育学校	九年	久保果鈴
広陵町立広陵中学校	二年	森井智規
跡見学園中学校	二年	尾張絢音

学校賞一覧

広陵町立真美ヶ丘第一小学校

〈小学校低学年の部〉

奈良市立平城小学校

〈小学校高学年の部〉

王寺町立王寺南義務教育学校

〈小学校中学年の部〉

王寺町立王寺南義務教育学校

〈中学校の部〉

「いのちの作文コンクール」によせて

審査委員代表メッセージ

奈良女子大学 教授 天ヶ瀬 正博

わたしたちは、ほかの生きものたちのいのちをいただいて生きています。動物たち虫たちもそうしています。草木たちキノコたちにも、そうしているものたちがいます。いのちはみんな、つながっています。なので、どのいのちも大切にしないと、だれも生きていけなくなるでしょう。自然のなかにいる生きものたちも、大切にしなければなりません。

わたしたちは生きるために、ほかの生きものたちをそだてることもしています。やさいやおコメやくだもの、虫たち、魚たち、鳥たち、動物たちをそだてて食べます。そればかりか、様子を見させてもらったり、声を聞かせてもらったり、相手になってもらったりします。そうして、わたしたちはからだもこころも元気になり、生きていけるのです。

わたしたちがむかしからそだている生きものたちは、もともと、自然のなかで自由に元気に、ゆったり安心して、しっかり食べて生きていました。だから、そう生きられるように、わたしたちがしなければなりません。そのことを、遠いむかしからいまも、そだてるときに約束しているのです。

いのちについて、みなさんから、今年もたくさんの方々がよせられました。おうちや学校、うだアニマル・パークやニュースなど、いろいろなところで、いのちについてかんがえたことが書かれています。いのちのつながり、いのちの大切さ、いのちの約束について書かれていて、すばらしい作文ばかりです。

公益社団法人 knots 代表理事 富永 佳与子

第2回「いのちの作文コンクール」には、四千二百十五名の応募がありました。それぞれの「いのち」の作文に触れることができ、選考委員の先生達も私も、心にたくさんの思いが込み上げました。「いのち」に向き合って考える時間は、大人にもとても大切だと改めて皆さんに気づかせてもらいました。

皆さんは、「奈良看護」という言葉を聞いたことがありますか。「豊かな知識、確かな技術と奈良に受け継がれる優しい心」で、奈良県ならではの最高の看護を提供するという奈良県総合医療センター看護部の皆様の想いを込めた言葉です。患者や家族が求めていることを汲み取り、「合わせ鏡」のように分かり合える看護を大切にされています。お母さんを看取った友達が、「おかげで最後の時間を穏やかに過ごせた」と、額に入れられた「奈良看護」の写真を送ってくれました。

奈良は、歴史の街でもあります。光明皇后は、施薬院（せやくいん）や悲田院（ひでんいん）を作り、貧しい人や孤児、病気の人を助けました。「奈良看護」は、この光明皇后のころを受け継いだものだと思います。日本の看護の原点は奈良にあるとして、「いのち」に向き合う奈良の歴史を引き継ぎ、つないでいかれている看護師の方々の想いに、深く心を動かされました。

「いのち」のことを考えると、皆さんは、時間も場所も色々なテーマも自由に飛び越えることができます。自分の「いのち」を真ん中に、さまざまな繋がりが見えてきます。

第二回奈良県「いのちの作文コンクール」審査委員

奈良女子大学教授

天ヶ瀬 正博

公益社団法人スコープ代表理事

富永 佳与子

奈良県道徳教育振興会議学校長代表

荒木 篤人

県総務部知事公室

古川 弘明

うだ・アニマルパーク振興室長

県教育委員会事務局教育次長

山内 祐司

県教育委員会事務局学び力はぐくみ課長

熊谷 啓子



第2回奈良県「いのちの作文コンクール」
作品集

令和6年3月

奈良県教育委員会事務局
学ぶ力はぐくみ課
